

新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る公募型プロポーザル  
(1次審査) 第2回審査委員会 議事録

日 時：令和3年12月2日(木) 10:30~17:30

場 所：県庁別館9階特別会議室及びweb会議

委 員：建 築：長谷川委員長、北山副委員、貝島委員(web)、千葉委員  
：図書館等：古瀬委員(web)、岡本委員、是住委員、難波委員

事務局：社会教育課新図書館整備室

事業アドバイザー：小野田教授

発注支援事業者：明豊ファシリティワークス(株)

## 《要旨》

### ■開会 【事務局】

- ・貝島委員、古瀬委員がWeb参加。
- ・参加表明22者、技術提案書(1次)は21者から提案。
- ・5案程度の選定をお願いしたい。

### ■参加資格報告 【事務局】

- ・21者全て、参加要件を満たしている。

### ■全体議論(午前中)

- ・どの提案もボリュームの感じや、オープンな感じの構成は近いため、外観的手法や外部、内部空間がどの様になるのかが議論になる。
- ・プログラムが細かく規定されている中で、参加者が誠実に答えている。
- ・開かれた図書館や調査研究のための図書館など、様々な図書館がある中で、これからどういう図書館を目指すのかも議論できればと考えている。
- ・ライフサイクルコストへの考慮も重要な要素ではないかと考えている。
- ・設備更新や吹抜けによる光熱費等などについて、どの程度検討されているか気になったが、ワクワク感のある図書館や街のシンボルになるような図書館など、色々考えられていると感じた。
- ・私の専門はユニバーサルデザインだが、この物差しで判断するのは難しいと感じている。
- ・図書館は採光をコントロールした方が良いと思うが、なぜガラス張りの提案が多いのか。読書より活動の場になってきているから。
- ・気軽に立ち寄れる図書館、本と向き合う図書館など、様々な図書館がある中、空間として何が良いのかは難しいが、ガラス張りの提案が多いと私も感じている。

- ・ 駅と接続しているため、都市の一部として、パブリックスペースをつくる意識や静岡の新しい公共空間としてのアイデアがあるのでは。図書館の機能を2つにわけている要求をどう捉えているのか、という点も皆さんと議論したい。
- ・ 従来の図書館はアーカイブの要素が強い。インターネットでは得られない共時性、共有性、コモンズなどの環境をどう作るか方向性もいろいろ示されているので、様々考えて提案していると思う。
- ・ 人と関われる活動空間やいろんな人に出会えるような広場的な空間を図書館に持ち込みたいという考えが多いように思う。
- ・ 建築そのものがランドスケープかそれが混在した提案もできたと思うが、そういう新しいコンセプトが見当たらない。
- ・ どう使われるかといった施設機能の方が注視されるようになって、新しい形態の創出に挑戦するというテーマが重要視されない時代背景もあるのでは。
- ・ 要求プログラムに丁寧に応えている一方で、形態的表現が弱く、グランシップの存在が十分配慮されていないように見える。
- ・ シンボリックで権威的な表現より、開かれた空間・フレキシビリティ・環境配慮への配慮が絡み合いつつ求められるようになったのが現代社会。開かれた空間の表現として人がどうやって使っているか、動きや活動を見せる手法としてガラス張りの提案が多いことと、この時代の要請が関係しているのではないか。
- ・ 空間が使われている様子が見えるという事もテーマになると思うが、環境配慮も考慮しなければならないので、そのせめぎ合いとなる。
- ・ 空間という言葉があまり使われなくなり、場を作るという言葉をよく聞くが、場を作ると言う時には、そこにある様相・空気感が大切で、それがどういう活動をするかということに結びつく。
- ・ 近年整備された図書館はガラスを多く使用した外観が多いが、都道府県の図書館であることを踏まえると、資料保存という視点は大事。
- ・ 市町村の図書館なら意匠性が高く素晴らしいと思うものもあるが、都道府県の図書館として考えた時に県民の望みに叶うかは考えさせられる。
- ・ デジタルやウェブの時代の中、新型コロナにより非来館の遠隔型利用が非常に伸びてきている時代になっているが、実空間の提案だけではなく、情報の空間とどう組み合わせ物理的空間が提案されているのかは、重要なポイント。
- ・ 提案テーマとして求めてはいないが、今の時代にふさわしいデジタル技術の活用や情報のサービスの活用に関して提案が少ない印象。
- ・ 閲覧だけでなく、本を読んで議論をする場を設けるとか、あるいはその活動をデジタル化して、みんなで色々な意見交換するとか、図書館は閲覧だけではない場所になってきている。
- ・ 単に収蔵されている本を読みに来る場所ではなく、図書館を通して活動が広がって

くような場になっていることが、今日的新しい図書館であり、その活動が図書館を動かしていることになると思う。そういう事がうまく閲覧空間と組み合わせることが大切だ。

- シビックプライドの様な考え方と地域資料とその活動を結びつける提案はあまり見られなかった。低層が交流する空間で、上層が従来の図書館空間で分かれている提案が多く、融合している提案があっても良かった。
- プログラムに書かれていたラボが、その地域性を作るためのサロンとして機能する。共時性、共有性、この場に居ることの意味を位置づけるための仕掛けがプログラムに入っていて、それに対しどの様に応えているかが大事。
- グランシップは観に行く施設で共有性はあるが交流はない。新しい図書館は敷地が駅前のため、人が集まる場、新しいものが生まれる場にしたい。
- 提案されている内容が県民が意見を発信したり、意見交換をしたりする交流の場のイメージが伝わってこなく、ダイアグラムに沿って提案している印象を受ける。新しいソフトウェアをいれるまでに至っていない。
- 近年整備された図書館は、使われ続ける施設もあれば、右肩下がりになっている施設もある。その差は箱をただ作るのではなく、活動が起こる仕掛けを踏まえて建築計画が練られているかだと思う。
- どの提案も回遊性を重視している。大きくなる建築ボリュームに対し、どの様にその空間を感じられるか、上層階に行きたいと感じさせるかを、どの提案も工夫をしている。
- 吹き抜けを内部空間とするのか、外部空間にその機能を持たせるのかは提案によって偏りがある。広場との繋がりをどの様に作るのかに関係していると思う。それがどの様に図書館と結びつくのかが争点になると思う。
- 日本人はランドスケープデザインがうまいが、どの提案もそこが上手くいっていると言えない。ランドスケープデザインだけでなく静岡らしさも読み込みたいと考えている。
- 地盤状況を踏まえた免震の考え方、構造形式や地震時の挙動など、地震に対する対応がどの様に考えられているかが大事。
- 閉じている空間である書庫をどう扱ったのかがプランニングとしては大事。図書の面白さを伝えるために、見えない空間となっている閉架書庫をどの様に扱ったかも大事。ガラスで全部開かれた広場ですと言っても、そうはいかないところをどう扱ったのかというあたりは空間の提案として大事なところ。
- テラスをどう扱ったか。内と外のつながりを持たせる場合、維持管理が難しい外部空間をどう捉えているかが大事。テラスを上手く使えば、内部に居ながら開放的な空間を同時に感じられる、今までにない新しい空間となり、良い提案になる可能性がある。
- 構造を後回しせず、構造と共に考える事が大事。それに対するコンセプトがあるかど

うか。

- ・ 架構は建築を決定づけるが、それが考慮されないまま、空間が検討されているように思える提案もある。
- ・ 2次に進んだ参加者にはリクエストを出す必要がある。何か欠けている部分に関してはリクエストする事で、提案者の能力の可能性について評価できると考える。そのため、1次で審査員が問題視したことを伝える必要がある。

## ■第1回目投票

- ・ 午前中の全体講評を踏まえ、各委員ごとに7案以内を投票。結果は以下のとおり。

|           |           |           |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 001 : 3 票 | 002 : 4 票 | 003 : 3 票 | 004 : 2 票 | 006 : 2 票 | 007 : 4 票 | 008 : 0 票 |
| 009 : 1 票 | 010 : 6 票 | 011 : 1 票 | 012 : 2 票 | 013 : 1 票 | 014 : 0 票 | 015 : 2 票 |
| 016 : 2 票 | 017 : 3 票 | 018 : 3 票 | 019 : 0 票 | 020 : 1 票 | 021 : 7 票 | 022 : 7 票 |

## ■各案についての議論（午後） ※全体議論、2回目投票後の議論内容も含む。

- ・ 第1回目投票結果を踏まえ、各案を講評。

### 001

- ・ 構造と空間の使われ方の関係性が建築の専門家にはわかりやすく説明されているものの、アーカイブコアが左右に動いている理屈の説明がない。
- ・ 都市のインフラで良いという主張に見え、社会インフラとしての図書館の在り方とパブリックスペースをどう置くかを的確に答えている。
- ・ 考え方を整理しているような提案だと思う。今後、設計を進める中で、居場所を図書館の要求に応じてフレキシブルに、設計を進めて行くプラットフォームの様な考え方を示している。また、建物の正面性を持たない外観も良い。しかし、デザイン的に本当にこの街のシンボルになるかどうかは心配。
- ・ 都道府県立図書館として良く検討された提案であるが、違う挑戦をしていただきたいところ。静岡である必然性が見出せない。
- ・ 協力車発着スペースから書庫への縦動線は合理的だが、管理フロアが最上階で本当によいかは検討する必要があると思う。
- ・ ここまで「開く書庫」は必要ないと思う。県立図書館は保存機能が重要で、閉架書庫の割合が少なく不安を覚える。
- ・ 鉄骨の2次部材が空間を表現する上で、重要な部分であり、この空間をどの様に活用されるのかを見せる必要があったと思う。
- ・ 外周の鉄骨部分に場所性が生まれてくると良いと思う。

### 002

- ・ 1階が活動空間となっており、他にない、「創造のひろば」という運用面の提案をい

れていて、プランは魅力的。書庫の作り方も明快。

- ・提案者の信念に基づいて似た表現が提出されるのは良いが、ほぼ同じ作品が最近竣工しており、尺を変えただけに感じる。
- ・木を使って軽やかに感じられる案は魅力がある。
- ・真ん中が広場になっているような放射状の書架配置が図書館として良いかどうかは疑問。
- ・提案の中で、建物高さが最も低いのが、今回の要求に対し低層の施設で解けるのか議論が必要だと思う。
- ・低層に抑えるため、吹き抜けがあるものの、全ての階の床が同じ様に重なっているため、特徴的な屋根を感じられるのは3階だけなのが気になる。
- ・2階にサイレントルームがあるが、静かになるのか。県立図書館としての学びの広場はこれだけでよいのか。また、地域資料の横に児童書もあるため、落ち着いて調べものをしたりできるのかが気になる。また、高い書棚の使い方は好き嫌いが分かれる。
- ・活動的な空間は上下で分かれており、造形的には美しいが、閲覧室の空間の使われ方に対する提案があれば良いと思う。

### 003

- ・県が策定した基本構想の4つの柱から空間の提案に至るまでの問題の捉え方は非常に的確で、解析が丁寧だが、外観が駅前ビルの様な感じで、静岡でこの外観であることに疑問が残る。
- ・閉架書庫などの各室の形が台形型となっているが、使い勝手が悪いように思う。
- ・固定した視点が1つしかなければ良いが、富士山軸で建物形態まで決めてしまってもいいか疑問。
- ・協力車発着場所と書庫の位置が対角配置されており、運用面で苦勞する箇所がある。
- ・今回の課題に対し丁寧に解いている。外壁がガラス張りでない場合の解き方が出ていて安心感がある。また、グランシップの黒い感じに対し、少し明るい色にして連続性を解いている。細かく設計している印象があり、配置も使いやすくできている。

### 004

- ・木が多く使われており、よい印象を受ける。
- ・広場の庇がロータリー側と駐車場側にあり、1階の寄り付きがうまくできている。内部空間に設けた広場が連なって上がっていく感じが面白く、屋根がその空間全体を覆っているのは良いと感じた。デッキが出てきてしまうところをアプローチ空間としてデザインできているのも魅力がある。
- ・サッシとルーフの大きなガラス開口は挙動が違うので、技術的にすごい難しく、上手く収まらないと思う。全部外部空間であれば理解できるが、内部空間化することが困

難ではないか。

- ・軽いルーフが浮いていることがこの提案の1番重要な点であると思う。軽やかルーフが架かるかどうか、この案を担保できるかになる。屋根下空間が屋外空間であれば問題無いと思うが、そうは行かない。ここは重要なポイントではないか。

## 006

- ・計画地からその周囲への繋がりが、東静岡エリア全体として捉え、熟慮されている。図書館としての動線がかなりスタディされている印象がある。
- ・協力車発着ステーションから管理諸室への動線は良く考えられているが、駐車場側の外観や機能面においても裏口の様に見える。グランシップ側の外観は開けており、検討がなされているが、その反面駐車場側が裏口のように感じてしまうので、入口の見せ方が分かりにくいと思う。
- ・緑が駐車場側にまで回っている感じがあまり出ていない。緑化した建築を作りたかったのだろうけど、取り巻いている緑化が図書館と関係無く感じる。
- ・静岡方面から東静岡に向かうと背面の印象を受ける。多方向に向いた建物と比べると駐車場側の外観が裏側的印象が強くなってしまう。
- ・計画地西側は駐車場があり、建物から引いた位置から見るため、本が収蔵されている部分の壁面が立ち上がってくる印象となるのは広域的な景観としてもったいないと感じる。書棚とそれによってできる場、図書館の在り方、場の雰囲気や丁寧さを考えている点は他の提案にない良い点だと思う。
- ・耐震壁付きラーメンは壁配置が重要になってくるため、プランニングとの整合が気になる。パッシブとアクティブの環境装置がうまく作動するの提案が実際に作り出される空間と合っているのかが読み切れない。

## 007

- ・グランドレベルは開放的な空間で、上には箱の中に様々な機能が詰まっている空間となっている。外壁を全面ガラスとした施設とは異なり、箱の中の空間は、それと違った印象の内部空間になると思う。
- ・箱の中を吹抜けとした大空間としているため、維持管理費が気になるが、各室の配置が使いやすい構成だと思う。
- ・外壁を全面ガラスにした建物より閉鎖的空間だが、印象的な風景や限定的な風景に対する窓により、採光が抑えられた閲覧室は魅力的な場になる可能性があると思う。プランニングもフレキシブルで可変性があり、将来に渡っても魅力を失われない可能性がある。巨大な吹抜け空間は熱環境が心配だが、居住域空調という考えもある。日本の小屋組みに見える巨大な吹抜け空間は、同じ場所を共有している感覚に寄与する可能性があると思う。実際、かなりのスケールなので、本当に雲の様に見えるのかはまだま

だスタディが必要な感じがする。

- ・建築の解き方は非常に上手く解けている。特に1階を開かれた空間、その上を採光がコントロールされた空間とするため、1階は抜けている状態で、その上を箱が合わさったボリュームを作っている。それを構造的に成立させるため、柱頭免震で軽い構造体を浮かしている。しかし、ある種ファッション建築に見えてしまうので、今は魅力的だが時間に耐える建築になっているかが気になる。
- ・コスト管理に関する説明が非常に丁寧で分かり易い。後工程から参加するプレーヤーについての記載は、他の提案書にはなく、技量を感じた。
- ・建物がグランシップより大きい。大きな箱は機能でなく大空間のための箱であり、そのための価値はあるものの、この大きさのものをここに置く必要があるか、これが静岡らしさなのかが疑問である。また、木が使われていない印象を受ける。
- ・最先端の建築がいつの時代にも対応できるのか、その建築物がいつまで持続性があるのかは疑問である。
- ・造形が強すぎるのと、この大きさが必要なのか。各機能の構成はよいが、大きさと建築言語表現に不安がある。

## 008

- ・敷地設定を変えた案。

## 009

- ・駅前という立地を考えて、駅のデッキレベルに図書館とは関係ないぐらいの広大なオープンテラスを作っており、他にない視点だが、図書館そのものに対する提案や、1、2階の広大なピロティに活気が生まれる提案など、何かしらの工夫は出来たはず。
- ・もう少し潤いのある楽しい空間であれば良かったと思う。ただ広いというだけでなく、将来の活用イメージやこの広がりで行き来できる事など、もう少し緻密な計画があれば違うように見える。

## 010

- ・プランは非常に明快に提案されているが、PC造の柱が沢山ある構造となっている。
- ・図書館としての機能を全体的に良く考えられている。将来的には太陽光、蓄電、水素などの制御システムを屋上に入れやすく、外壁もダブルスキンとなっており、環境性能の面から非常に良い。
- ・本を移動させるための動線が最も良いが、事務室の位置がこれでよいのかは今後検討が必要だと思う。県立図書館ならではの役割に対する配慮や意識が現れており、幅広い視点を持っていてアピールポイントになっている。
- ・1階の交流スペースでの活動イメージが提案されていないことが気になる。

- ・プランニングが良く解けている。外皮がダブルスキンなので、熱の制御などはしやすいが、アルミパンチングメタルによる立面が新しい静岡のイメージを作れるかどうか疑問。
- ・機能的には良く出来ているが、外観に既視感がある。造形はボイドによって分かり易い構成になっているが、人が滞在する場所がバックヤードを外壁で包まれているため、外とのつながりが感じられるかが気になる。熱環境はよいが、実際の室内体験としては閉鎖感が強いと思う。
- ・コンパクトにまとまっているが、にぎわいや人の滞留などはどうなのか。車社会の中、デッキが出来て人がいることが見える事は街の賑わいには重要だと思う。
- ・ランドレベルをもっと豊かにしてもらいたいと思う。にぎわいが必要。ランドスケープのデザインが足りない様に思う。

### 011

- ・エレベーターがレファレンスの裏にあり、職員の管理動線が良く、直営事務室が2階で危機管理的にも良い。5階に地域資料とテラスがあり、地域を知りながら富士山を観る環境が良いと思う。
- ・外観に強い主張が無かった。回遊性は考えられているが、なぜ2ルート必要だったのかが不明。
- ・今回の要求に対してよく解けている提案だが、静岡という場所性と駅と連続した新しい図書館に対してどの様にパブリック空間が出来ているのかが気になる。
- ・樺大通りについてグランシップの東側にある公園から続く回遊性、連続性は期待に込んでいるが、駐車場側が裏面の印象となってしまう。
- ・樺大通りの歩道はイベント用で広いため、さらなる工夫がないと大通りと敷地の関係が大雑把な印象になってしまうと思う。もっとランドスケープの工夫が必要だと思う。

### 012

- ・もう少し工夫すればランドスケープアーキテクチャになる。フラットスラブが浮いて、どの様に透明なカタチにするかがわかりたい。
- ・他事例で似た様な提案がある様に思える。
- ・書庫などの重い機能を下層にして、上が開放的な部屋を入れている。高い階数が多い提案の中、低層化を図った1つの方法だと思う。正確に設計されているか疑問な所もあるが、多方向性みたいな正面がない建物に魅力があり、詰めていくと魅力が上がると思う。
- ・建ち方としては、四方からそれぞれの様相が見えるのは面白い提案だと思う。

### 013

- ・四角い平面計画に安定感、安心感が感じられ、書庫の位置なども使いやすそう。大学図書館の印象を受ける。
- ・機能面では要求水準書をよく理解している。
- ・書庫については、フロアを分けて配置するよりも、平面的に計画した方が、将来的な自動化技術を考えると、人的コストを抑えられる可能性がある。
- ・要求水準書に素直に答えている。メンテナンスへの配慮やダブルスキンによる外壁性能も提案しているが、公共性や駅前で気軽にみんなが立ち寄れるっていうことに対してはあまり考えられていないのかなと思う。

### 014

(特に委員からの意見は無かった。)

### 015

- ・ナイスチャレンジではあるが、課題が多いと思う。グランシップを意識する事はよいが、それに引っ張られることは、今回求めている要求ではないと思う。グランシップに引っ張られるあまり、図書館としての機能、今回求めている役割が損なわれてしまった気がする。
- ・移動ルートが大回りだが、スロープで繋がったものとなっている点は評価できる。
- ・上層階までのスロープはすごいが、車椅子利用の現実性は疑問。

### 016

- ・公共建築において、土を使うという提案はあまり無く、そういった視点が新しいと思う。
- ・緑を繋げる、立体化する意図は読み取れるが、1枚の床がめくれているような造形が必要かどうかは疑問。
- ・高木を植えるため、曲面を使って土が多く入る工夫がなされている。土の建築として緑化と一体になっている提案だ。土で独特の建築を表現する事は難しいと思うが、実際に土の建築として成り立つのかは分からない。
- ・木を植える際に土の事が考慮されていない場合が多いが、この提案は良く検討されており、高木を植える所には土が入るボリュームを確保している。しかし、これだけの高さで高木を植えると台風などで倒木等のリスクがある。
- ・独立して周囲と関係性がない造形になっている。自然の使い方としてはあまり賛成できない。
- ・スロープを多用しており、エレベーターに依存しない計画が良い。

## 017

- ・中央に書庫を配置し、この案も外壁をガラス張りとしている。地域資料、一般閲覧が不思議な形で楽しそうに見え、図書館としての機能もしっかりしている。
- ・他の不定形な平面計画の提案よりも、上に誘導させる事を強調しながら回遊性を推している案。スラブが重なる空間と重ならない空間がイメージの様に実際に感じられるかの詳細な検討は必要。コンパクトにまとめられており、外部との関係性が良く考えられている。
- ・エスカレーターがたくさん設けられていて、メンテナンス費用が気になるが、大階段などの動線計画がわかり易い。
- ・S造で提案されているコアだけでは耐震要素が少ないと感じる。
- ・書庫もガラス張りで、本が痛むのではないか。壁面に本棚が置けないので、その分蔵書数も減るのではないか。

## 018

- ・他にはない形なので、良いと思ったが、図書館としての機能がほとんど書かれていないので、評価しにくい。
- ・外壁をガラス張りとした開放的な案が多い中で、箱の隙間からアクティビティが溢れ出し、吸い込まれていくのは1つのありえる姿だとは思いますが期待値も込めて読み解いている。プランが描かれていないので何とも言えない。静的な場所とアクティブな場所の使い分けも狙っているかもしれないが、本来求められていることに答えられているかが分からない。
- ・外観は面白そうだが、内部空間の提案がないため、期待値だけでは判断が難しい。
- ・機能分布の話として、箱に機能が入っていて、隙間の機能はある意味無限定数の状態だと思う。箱で機能を特定してしまうと、今後、運営していくに当たり、臨機な対応が難しくなるように感じる。静岡に造る図書館がハコの集合体として、回答を与えても良いかは疑問に思う。
- ・ハコ空間にフレキシビリティがないように思う。20年くらいすると機能変更がおきる事を想定する時が難しいと思う。

## 019

- ・グランシップが建設された時代の建築に対抗するためのオブジェクトの様に感じる。今の時代では求められてないという感じ。コストも掛かりそう。
- ・静岡らしさというのは何かというところ。オブジェクティブなものが2つ並んだのが静岡の顔としてどう見えるか。
- ・回遊性はこだわった提案になっており、大きくなるボリュームを空間としてどの様に経験できるかについては検討されている。

## 020

- ・印象的な外観を組み合わせて挑戦しているところは良い。気象条件の検討に関してはスタディされている。
- ・外壁4面全てに太陽光パネルを設置しているが、効率良く発電できるか疑問である。
- ・駅前の賑わい空間となる施設に暗い印象となる黒い建築は印象が良くないのではないか。

## 021

- ・図書館における活動がどの様に生まれるのかという点において、運営、場の在り方について検討した内容が行き届いた提案となっている。
- ・外観が客船に見え、グランシップと並んで東静岡に2隻大きな船を並べることになってしまうのはいかがなものか。
- ・物流、動線の問題がなく、市町をサポートするオフィスの提案もあり、県立図書館特有の内容が検討されている。機能の提案だけでなく、プログラムが展開されていく発想があり評価できる。コストでイニシャルとランニングにソフトの踏み込みが非常に良いと思う。県としてDXを進めており、課題認識をしている。コストコントロールを含めたスケジューリングがしっかりしており、非常によくスタディができています。
- ・ラボの使い方が上手いと思う。それぞれの階で閲覧や開架と結びつけて、1階で街に広がっていく感じがとても良い。
- ・構造体の考え方が明快に構成できており、周囲にテラスのある提案の中では、構造体との関係が上手くいっていると思う。中間免震のメリット、コスト、工程を考えて、この選択は上手くいっていると思うが、オブジェクトの印象が気になる。インフラの様に見えてくると良いと思う。

## 022

- ・要求通り出来ているものの、テラスが沢山重なっているだけで、豊かな印象が感じられず、ランドスケープデザインがよく考えられていない様に思う。
- ・要求内容や課題に対し丁寧に検討された提案で、スタディも考えられている。チーム体制なども良く、真剣に取り組んでいる印象を受けるため、非の打ち所が無く、落とす理由はないが、本当にこれが一番良いのかと言われると疑問がある。
- ・要求内容や課題に対し丁寧に検討された提案であると思う。建物が高いので、城の様な高さが本当に必要なのかが疑問であるのと、外部空間に魅力が感じられない印象を受けるが、テラスを周囲に回して駐車場側に公園的な場所を作る事については解けていると思う。
- ・同じ9階建ての提案と比べるとランドスケープが違った印象をうける。

- ・特徴が有りそうで無い印象をうける。
- ・駿府城の様に橋を渡って書庫に入る感じだが、お堀である吹き抜け部分を重力換気等に使っていくなどの説明を全てして抜かりなくやっているチームだと思う。2次に対してリクエストをしていく価値はあると思う。
- ・お城の様に見える外観だが、下手すると集合住宅に見える可能性がある。テラスをどれだけ有効に図書館として使えるか、プログラムとのマッチングで上手く使えるかが重要で、運営側からすると厳しい提案と感じる。テラスを回遊することを想定しているが、外から自由に入っていけるわけではないと思うので、運営とセットで提案があると良いと思う。

## ■第2回投票対象者の選出

- ・第1回投票結果と各案の議論から、1次通過候補者は001、002、004、007、010、012、021、022とする。1次通過者を5者程度に選定するため、審査員1人につき3案を選び、第2回投票を行う。

## ■第2回投票の結果

- ・第2回投票の結果は以下。

|        |        |        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 001:4票 | 002:1票 | 004:1票 | 007:2票 | 010:3票 | 012:3票 | 021:6票 | 022:4票 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

## ■1次審査通過者の選定と決定

- ・第2回投票結果と各案に対する議論より、001、007、010、012、021、022を1次審査通過者とする。

## ■付帯質疑等についての議論

- ・1次審査の評価を2次審査に持ち越さない方針とする。
- ・付帯質疑では、外観とランドスケープは参加者全員に共通質疑とする。個々の案についての議論内容は個別に伝える。
- ・県立図書館としての新しい建築がほしい。付帯質疑をすることで案をよりよいものになりたい。
- ・静岡の独自性について、再検討してはどうか。
- ・コミュニケーションのレベルで的があっていない。議論の内容をサマリーして求めているものを伝えたほうがよい。